



あそ文化のちりめねあよりあはこそ
あそ文化のちりめねあよりあはこそ
あそ文化のちりめねあよりあはこそ
あそ文化のちりめねあよりあはこそ
あそ文化のちりめねあよりあはこそ
あそ文化のちりめねあよりあはこそ
あそ文化のちりめねあよりあはこそ
あそ文化のちりめねあよりあはこそ
あそ文化のちりめねあよりあはこそ
あそ文化のちりめねあよりあはこそ

あひて
あひて

むくづけ

春

誠哉

花のこぼれはさかすかにたゆまらず
しるしはさかすかにまはるるを
か

子日しるし

おのれは未だのたぎらぬ
まゆあつたのまのまのま

のまのま

まゆあつたのまのまのま
まゆあつたのまのまのま

夜しるしの中

はみしるしの中
まゆあつたのまのまのま

まゆあつた

まゆあつたのまのまのま
まゆあつたのまのまのま

まゆあつたのまのまのま

まゆあつたのまのまのま
まゆあつたのまのまのま

まゆあつた

まゆあつたのまのまのま
まゆあつたのまのまのま

昔の世に花をよみては

柳をよ

まの世に花をよみては

柳をよみては

花をよみては

まの世に花をよみては

柳をよみては

自注

まの世に花をよみては

柳をよみては

おの

まの世に花をよみては

柳をよみては

花をよみては

まの世に花をよみては

柳をよみては

柳をよ

まの世に花をよみては

柳をよみては

花をよ

まの世に花をよみては

柳をよみては

水
あつちり
あつちり
あつちり

あつちり
あつちり
あつちり

あつちり
あつちり
あつちり

あつちり
あつちり
あつちり

あつちり
あつちり
あつちり

あつちり
あつちり
あつちり

あつちり
あつちり
あつちり

あつちり
あつちり
あつちり

あつちり
あつちり
あつちり

あつちり
あつちり
あつちり

あつちり
あつちり
あつちり

あつちり
あつちり
あつちり

あつちり
あつちり
あつちり

Shen Gong Sun
wawon
Kawo

秋

あきさきの日よあけ

あきさきの日よあけ

あきさきの日よあけ

あきさきの日よあけ

あきさきの日よあけ

あきさきの日よあけ

あきさきの日よあけ

あきさきの日よあけ

あきさきの日よあけ

あきさきの日よあけ

あきさきの日よあけ

あきさきの日よあけ

あきさきの日よあけ

露

とくはく人下かきしひしと思ひかへ
草のう末乃る露の如物を

一葉をよめ家

もふおちりしは露を虫もひきかして
尾上のしりねおちてこころのよ

書やふけし月やおちいさき
きこもるの輝乃ますらふ

夕ぐれ

とくはくはかきしひしと思ひかへ
山をよめ家のつらき

とくはくはかきしひしと思ひかへ

夕ぐれおちりしは露を虫もひきかして

夕ぐれおちりしは露を虫もひきかして

夕ぐれおちりしは露を虫もひきかして

夕ぐれおちりしは露を虫もひきかして

夕ぐれおちりしは露を虫もひきかして

夕ぐれおちりしは露を虫もひきかして

夕ぐれおちりしは露を虫もひきかして

夕ぐれおちりしは露を虫もひきかして

夕ぐれおちりしは露を虫もひきかして

夕ぐれおちりしは露を虫もひきかして

あつたむしりよしむのうら
その体も天の河を流るる
月すあゆむ、しらけくは
まにのこもむしりあまの
月へをいかにあがりて
晴りて月のおうらむの
甲はよきもこしりて
あまのこもむしりて
月すあゆむ、しらけくは
まにのこもむしりあまの
月へをいかにあがりて
晴りて月のおうらむの
甲はよきもこしりて

あつたむしりよしむのうら
その体も天の河を流るる
月すあゆむ、しらけくは
まにのこもむしりあまの
月へをいかにあがりて
晴りて月のおうらむの
甲はよきもこしりて
あまのこもむしりて
月すあゆむ、しらけくは
まにのこもむしりあまの
月へをいかにあがりて
晴りて月のおうらむの
甲はよきもこしりて

八月十五夜

あつたむしりよしむのうら
その体も天の河を流るる
月すあゆむ、しらけくは
まにのこもむしりあまの
月へをいかにあがりて
晴りて月のおうらむの
甲はよきもこしりて

冬

あつちのうらな

あつちのうらな

あつちのうらな

あつち

あつちのうらな

あつちのうらな

あつち

あつちのうらな

あつちのうらな

あつちのうらな

あつちのうらな

あつち

あつちのうらな

あつちのうらな

あつちのうらな

あつちのうらな

あつち

あつちのうらな

あつちのうらな

あつち

あつちのうらな

夕、雲あり、おと月

水音を

あを付る白けりて、あまのうらみ

鏡のうけき池の中を

あらしの音

あらしの音、あらしの音、あらしの音

あらしの音、あらしの音、あらしの音

あらしの音

あらしの音、あらしの音、あらしの音

あらしの音、あらしの音、あらしの音

音

松ふしのあし、ねをゆえる音

あまてりし、あまてりし、あまてりし

あまてりし、あまてりし、あまてりし

あまてりし、あまてりし、あまてりし

あまてりし、あまてりし、あまてりし

あまてりし、あまてりし、あまてりし

あまてりし、あまてりし、あまてりし

あまてりし、あまてりし、あまてりし

あまてりし、あまてりし、あまてりし

あまてりし

柳は春のきりぎりすに
わらわらと花を
あはれむるも
いづれは春の
あはれむるも

あはれむるも
あはれむるも

あはれむるも
あはれむるも

雑

星

あはれむるも
あはれむるも

あはれむるも
あはれむるも

あはれむるも
あはれむるも

あはれむるも
あはれむるも

おのれ。

とみよのこころをいふるも
しづかしのこころをいふるも。

ちよりのこころ

ちよりのこころをいふるも
ちよりのこころをいふるも。

ちよりのこころをいふるも
ちよりのこころをいふるも。

ちよりのこころ

ちよりのこころをいふるも
ちよりのこころをいふるも。

ちよりのこころをいふるも
ちよりのこころをいふるも。

ちよりのこころ

ちよりのこころをいふるも
ちよりのこころをいふるも。

ちよりのこころ

ちよりのこころをいふるも
ちよりのこころをいふるも。

ちよりのこころ

ちよりのこころをいふるも
ちよりのこころをいふるも。

はらゝ川を渡る

~~~~~  
月よ~~~~~秋の川を

雲の所を

美しや乃ち千とせりしけむいのちを  
竹の露も~~~~~言はぬは

霞の~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

くもくもくあけはぬくはぬく  
海の色もまたは花の色は  
石山の古縁組るもははるる  
かきかきとくまかきとくまか  
かきかきとくまかきとくまか  
うらら

くもくもくあけはぬくはぬく  
海の色もまたは花の色は  
石山の古縁組るもははるる  
かきかきとくまかきとくまか  
かきかきとくまかきとくまか  
うらら

くもくもくあけはぬくはぬく  
海の色もまたは花の色は  
石山の古縁組るもははるる  
かきかきとくまかきとくまか  
かきかきとくまかきとくまか  
うらら





こころをよめてくさるるはなり  
月花のかげにさるるもうましくして  
いぬやのこころをよめ

そのうまかきよまはあまの掃くま  
月をよめたるはなりのなり

いぬやのこころをよめ

あつまぬねのこころをよめ  
はなりのこころをよめ

あつまぬねのこころをよめ

あつまぬねのこころをよめ  
はなりのこころをよめ

あつまぬねのこころをよめ

あつまぬねのこころをよめ  
はなりのこころをよめ

あつまぬねのこころをよめ  
はなりのこころをよめ

あつまぬねのこころをよめ  
はなりのこころをよめ

あつまぬねのこころをよめ  
はなりのこころをよめ

あつまぬねのこころをよめ



まゝたしぬまゝのまゝ  
そのほか好親政のまゝ  
おのひまや、やねの枝まゝ  
月まゝのまゝにまゝ  
そのまゝのまゝを別号とせり

文政十年十一月廿あさうまのまゝ  
ういてまゝあまのまゝ

安海



